

# 消費地情報

和歌山県農業協同組合連合会 北海道事務所 坂口知哉



## はじめに

当事務所管内では令和3年産秋冬果実の販売が9月のたねなし柿からはじまり、現在蔵出しみかんを販売中です。

令和3年産の柿は昨年とは対照的に8月中旬の降雨の影響で低温の日が続いた後、9月に入り着色が進み前進出荷となりました。

みかんは極早生みかんが出荷当初から糖度不足で荷動きが鈍い状態が続きました。早生みかん以降は10月期に晴天日が続き糖度は回復し、比較的順調な販売となり12月からの中生みかん販売へスムーズにシフトしました。

現在、道内ではみかん・りんご・中晩柑類が主力の販売となっています。本年は昨年に引き続きコロナ禍の影響で依然として店頭試食宣伝販売ができない状態が続いています。本稿では北海道事務所において実施した、感染症拡大抑制対策を備えた推奨宣伝販売や、酪農学園大学での食育活動、デスク de みかんについて報告します。

## 量販店において柿の機能性や有田むきをPR

本年は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、店頭での試食宣伝販売が実施できず、リーフレットを入れたサンプル品を配布しました。

柿は美と健康をテーマに「beauty&health KAKI RESCUE」キャンペーンを実施し、健康面でのPRを重点的に行いました。事務所にて栄養機能マニュアル・POPを作成し、販売員さんに店頭販促時に活用していただくとともに、かき音ちゃんシールを店頭にて子供達に配布しました。試食は出来ませんでした。多くの方々に和歌山のたねなし柿に対して興味を持って頂きました。

みかんはJAありだ共選協議会にて「有田みかんは、幸せみかん。」を前面に出したキャンペーン企画を知ってもらうため、事務所独自に作成したリーフレットを配布してPRを行いました。



有田むきリーフレットとスタンドパックを用いたみかん推奨販売



「beauty&health KAKI RESCUE」を前面に出した売場

## 酪農学園大学での食育活動

酪農学園大学食堂（北海道江別市）にて柿とみかんのサンプル配布をして学生を中心に PR を行いました。

柿は10月8日に、特設サイト・Instagramキャンペーンの誘致 PR、アンケートも行いました。アンケート結果からほとんどの学生が柿を喫食したものの和歌山が日本一の産地であること、豊富な栄養素を含んでいる健康食品であることと認知していなく、より一度学生に PR する必要性があると痛感しました。

みかんは11月18日に、リーフレットを同封して有田むきのPRとアンケートを行いました。みかん＝和歌山と認識している学生が過半数であるものの、「有田むき」の認知が低い結果でありました。これらのアンケート集計結果から新たな消費者層の開拓の余地があり、若年層向けの消費拡大対策を次年度以降強化して取組めます。

### 柿食育活動アンケート結果(アンケート集計数 130)

設問1. 柿を今まで食べたことはありますか？

	はい	いいえ	合計
人数	129	1	130
比率	99.2%	0.8%	100.0%

設問2. 和歌山県は柿の生産量が日本一であることをご存知ですか？

	はい	いいえ	合計
人数	41	89	130
比率	31.5%	68.5%	100.0%

設問3. 柿にはビタミンCや葉酸などたくさんの栄養素を含んでいることをご存知ですか？

	はい	いいえ	合計
人数	66	64	130
比率	50.8%	49.2%	100.0%

コメント：

- ・柿大好きなのでとても嬉しかったです！美味しく頂きます。
- ・柿とてもおいしかったです！



柿食育活動の様子

**みかん食育活動アンケート結果(アンケート集計数 123)**

設問1. 和歌山県はみかんの生産量が日本一であることをご存知ですか？

	はい	いいえ	合計
人数	91	32	123
比率	<b>74.0%</b>	26.0%	100.0%

設問2. 有田むきというみかんのむき方をご存知ですか？

	はい	いいえ	合計
人数	16	107	123
比率	31.5%	<b>68.5%</b>	100.0%

設問3. みかん県と言えばざぱり何県ですか？

	静岡県	<b>和歌山県</b>	愛媛県	長崎県	熊本県	合計
人数	10	71	41	0	1	123
比率	8.1%	<b>57.7%</b>	33.3%	0.0%	0.8%	100.0%

コメント：

- ・めっちゃ甘かった
- ・あまくておいしかったです。
- ・とても甘く美味でした。毎年冬に有田みかん食べます。今年も頂きます。
- ・甘くて深さを感じた。これなら日本一の生産量だなんて感じました。



みかん食育活動の様子

## 「デスク de みかん」の実施

「デスク de みかん」とは、家庭だけでなく、職場や学校のデスクでもみかんを食べてもらおうという運動です。本年も日園連主催のデスク de みかん運動を12月に札幌市内企業2社協力のもと行いました。特に働き盛りの20代から40代はくだもの摂取量が少なく、この運動を通じ喫食機会をつくり消費拡大に繋がるようPRを行っています。



デスク de みかんの様子

## まとめ

新型コロナウイルスの感染者は日々増加しており道内では札幌市内を中心に拡大しており予断を許さない状況が続きます。北海道事務所ではコロナ禍においても感染症防止の観点を踏まえ、本県産青果物に多くの方々が興味を持って頂くため、消費宣伝活動を継続的に取り組みます。また、アフターコロナについても考察し、新たな生活様式に対応した消費宣伝に取り組みます。

青果業界においても川上では生産者の後継者不足、川下では若年層の食への関心の低下等、取り巻く環境は日々厳しくなっています。今後、社会情勢全般に見合った新たな取組みを模索して本県産青果物の消費拡大につとめ有利販売に繋げます。